

# 国立情報学研究所実務研修

## 1. 目的

国立情報学研究所における実務を経験することにより、高度の学術情報システムの環境に対応しうる知識と技術を修得し、大学図書館や情報センター等が推進する学術情報流通基盤整備の中心的役割を担う。

## 2. 到達目標

国立情報学研究所学術基盤推進部（学術基盤課、学術コンテンツ課、図書館連携・協力室）における OJT（On the Job Training）を通じて、学術情報流通基盤の構築に向けての企画・立案・実施等の手法と、対応する知識と技術を修得する。また、学術情報流通基盤の構築にかかる総合的かつ長期的視野を持つ。

なお、本研修修了者には、次年度以降も国立情報学研究所が主催する各種のイベント・講習会、各種ワーキンググループ、パブリックコメント等に積極的に参加することを求める。

## 3. 受講対象者

大学・研究機関等において、現に図書館の運営業務、電子計算機及びネットワーク等の管理業務に従事する（予定を含む）職員。

## 4. 受講の前提となる知識

学術情報流通基盤の構築、運用および管理等の概要を理解していること。

## 5. 受入期間等

NII への通勤	募集時期	研修開始希望日	申込締切	受入期間	定員
(1) 可能	2023 年度前期	7～9 月	研修開始希望日 3 か月前まで	個別調整 (3 か月～ 1 年以内)	若干名
	2023 年度後期	10～12 月			
	2024 年度前期	4～6 月			
(2) 困難	2023 年度後期	9～12 月			
	2024 年度前期	4～8 月			

※ 研修修了日は年度末日（3月31日）を超えないこと。

※ 受講希望者及び所属機関の希望により、テレワークによる研修も実施可能である。

※ 2024 年度前期に研修開始希望の場合は、2023 年度内に事前調整・申込を行う。

※ 「7.受講の申込みと受講者の決定」記載事項も留意のこと。

## 6. 主な研修内容

テーマおよびカリキュラムは、国立情報学研究所、派遣機関および研修生との間で協議の上決定する。研修生は研修報告書を作成して派遣機関に報告するとともに、個別に設定した研修テーマについて、レポートを作成し発表を行う。

2023年度の研修テーマ例：

- 学術情報ネットワークの設計・構築・運用 (SINET)
- 学術認証フェデレーションの整備 (学認 GakuNin)
- クラウド導入支援 (学認クラウド)
- セキュリティ (NII-SOCS 等)
- 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) の事務に係る業務
- 電子リソース基盤整備 (ERDB 等)
- 総合目録データベースの強化 (NACSIS-CAT 等)
- オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) 及び機関リポジトリ・共用リポジトリの推進 (IR、JAIRO Cloud、DOI 等)
- 学術情報の発見・アクセス環境の高度化 (CiNii、KAKEN 等)
- 学術情報流通推進の整備 (SPARC Japan 等)
- オープンサイエンス・研究データの共有・公開基盤の構築

過去の研修実績や具体的なテーマの例は、国立情報学研究所実務研修のウェブサイトを参照のこと。

<https://contents.nii.ac.jp/hrd/jitsumu/result>

<https://contents.nii.ac.jp/hrd/jitsumu/2023>

## 7. 受講の申込みと受講者の決定

受講希望者の所属機関が、推薦書を提出することで受講希望者の推薦を行う。研修開始希望日の **3 か月前まで**に、各所属機関の長から国立情報学研究所長に対して、「国立情報学研究所実務研修推薦書」を提出する。

但し、事前の協議が必要となるため、推薦書提出の 1 か月前までを目処に、国立情報学研究所教育研修事業担当に問い合わせを行い調整する。

推薦書書式・受入に係る手順等は、国立情報学研究所実務研修のウェブサイト参照のこと。

<https://contents.nii.ac.jp/hrd/jitsumu/2023>

## 8. 経費

研修費および教材費	無料
旅費	国立情報学研究所の負担

※ なお、就業規則の適用、給与、諸手当、住居等に関する事項については、国立情報学研究所と派遣機関との間で協議の上決定し、協定書を締結する。

## 9. 修了証書

この研修において所定の課程を修了した者には、修了証書を授与する。